

大10 13歳

*家が貧しかったので、益でも働かされた。

しかし、時に一日くらい暇をもらうことがあった。そういう時には気のあった友人と山野を跋渉した。旅を恋うる心がすでに芽生えていた。

四月 国民中学講義録をとりはじめ。

*旺盛な読書力で色々な本を読む。雑誌「日本少年」「少年世界」「少年倶楽部」「世界少年」「冒険少年」などを級でとって読み、仁助叔父が送ってくれた「海国少年」「一二年の中学生」をむさぼり読んだ。また「寺内元帥伝」「乃木大将伝」「不如帰」「大正の青年と帝国の前途」「青芦集」「肉弾」「思ひ出の記」などを読んだ。残念なのは周囲にすぐれた文学書のなかったことである。

六月二日 白井先生が冲家室校にかわる。

生徒は皆声をあげてない。師を送るにあたって泣けたのは之がはじめである。実にいい先生であった。その日先生が私に下さった「児等よ」の一文は巻紙二丈にあまるものであり、長く肌身はなさず持っていたが、どうしてか失ってしまった。

*先生は多くの唱歌を作って我々にうたわせた。

「希望の歌」「健児の歌」などは今もそのまま歌詞を覚えている。私にとっては実に大切な人で、文学に親しむ途はこの人がひらいて下さったのである。

六月 兼田先生を迎えた。

先生と合わず、秋一〇月、学校前の城山に上って先生排斥をやった。ために先生はやめてしまわれた。この先生は実に立派な方であったが、非常に不運で、今にしてこの時の態度を遺憾に思っている。先生とは、今、実に親密である。この先生によって『瀬戸内海論』を読んだ。

一一月以降、担任の先生なく、殆ど宮本が教えた。採点その他も宮本がした。

柳田(46歳)

この年、各地で沖繩に関する講演を行なう。五月、国際連盟委任統治委員に就任。渡欧。

洪澤(25歳)

東京帝国大学経済学部を卒業。横浜正金銀行へ入行。

アチック会合をアチック・ミューゼウムソサエ

大正10(一九二一年)

21 メートル法採用
*女工哀史の時代

21 蛇の目シン工業設立
21 水稲耐寒品種「陸羽一三二号」を交配、東北各県に普及

21 静岡県清水にて初めて漁業用無線通信開始

21 機船底曳網漁業の黄金時代

21 カニ缶詰の船内製造開始
21 東京市場に初めて冷凍魚が出荷

*本格的な遠洋漁業へ

21 全国自動車台数一万台越える

21 十五夜お月さん(歌)

21 赤とんぼ(歌)

21 七つの子(歌)

*映画と新天地と浅草の食堂街

*白色割烹着家庭主婦の姿に

*文化住宅

*天井とドブは鼠天国